

街路樹

学力向上に向けて ②③

～ 音読で脳と授業の活性化を ～

「福翁自伝」は痛快な書物です。福沢諭吉の人物の大きさに圧倒されつつ、晴朗な読後感を味わえます。何よりも驚嘆させられるのは、新知識を学ぶ姿です。蘭学に志したのが21歳。その後、英語に転じ英蘭対訳の辞書を頼りに独力で英語を学び始めたのが26歳。そして、咸臨丸に乗って米国に渡航したのが27歳です。外国語を習得するには、かなり遅い出発でした。彼の外国語習得を支えた素地は何だったのでしょうか。その一つに、少年期に繰り返し学んだ漢学の素養があります。当時の漢文の学習法は、素読、音読が基本です。そして、先生から講義をしてもらう。そして、何回も読む。「春秋左氏伝」という大部な書物を十一編繰り返し読んだと記されています。

音読が脳を活性化することは、近年の脳科学の研究によって実証されています。音読や単純な計算の繰り返しをしているときは左脳も右脳もそして、前頭前野が活発に活動していることが分かったのです。「自分の脳を自分で育てる」(川島隆太 くもん出版)このような知見をもとに、音読を学習指導に効果的に採り入れてみましょう。日々の授業を振り返ってみると、教科書を音読することが意外に少ないのではないのでしょうか。課題解決や話し合い活動に時間をとり十分に音読していなかったということはありませんか。授業の初めと終わりは、国語科に限らず音読で締めくくりたいものです。

そこで、音読指導のポイントを紹介します。

- ①読む速さは、1、2年生は1分間に200字くらい、3年生以上は300字くらい
- ②正確にすらすら読む。
- ③全教科の教材の文章を音読する。理解することを目指して音読させる。
- ④教師がすらすらと範読してみせる。一字の誤読もしないよう教材研究を十分に行う。
- ⑤児童生徒に一斉音読をさせる。読む構えを作らせ、初めの五文字くらいを読み「ハイ、」と簡潔に言う。
- ⑥課題の学習が済んだら、最後にもう一度、一斉音読をして終わる。

次に、「音訓式素読」で古典教材の単調な音読練習を活性化させてみましょう。短い漢詩や漢文の一節を使えば、小学生にも効果的です。

例えば、唐詩、「春暁」の起句「春 眠 不 覚 暁」を音読みで直読します。「シュン ミン フ カク ギョウ」次に訓読します。「しゅんみん あかつきをおぼえず」と音訓交互に読んでいくのです。「論語」では、「子 日、学 而 時 習 之、」は音読みで「シ エツ、ガク ジ シュウ シ」と読み、訓読みで「しいわく、まなびてときにこれをならう」と読んでいきます。本来の中国語としての音の響きを感じられ、同じ漢文の繰り返しでも新鮮です。また、漢詩の場合は、音読みすることで自ずから韻の響きあいを感得することができます。詳しくは、「脳と音読」(川島隆太、安達忠夫著 講談社現代新書)を参照ください。

音読を採り入れて、子どもたちの声が響きあう教室を作りましょう。

研修の感想・学校図書館活用講座

- インターネット予約の事務手続きについて、詳しい説明がありました。(小・A)
- 総合図書館との連携を図って、学校図書館の利用・活用の幅を広げ、生徒のニーズに応えられるような活動を展開していきたいと強く考えさせられました。(中・S)
- 学校図書館の機能を充実させるためには、図書館を魅力的なものにすることが大切だと思います。環境整備に力を入れていきたいです。(中・K)

授業改善・指導技術 ⑬

～ 発問・板書の仕方の工夫 その5 ～

28～31号に「発問・板書の仕方の工夫」を取り上げました。今年度配布された「『よい授業』のすすめ」にも、発問・板書について、指導技術として、載せられています。今回は、前号の発問に続き、板書のタブーについて考えてみました。

- 1 学習のねらいや学習のまとめを書かない板書
 - 板書には、①単元名や教材名 ②学習のねらい ③学習のてがかり ④学習内容 ⑤学習のまとめを必ず書く。
- 2 子どもの発言を取り上げない板書
 - 数人の子どもが発言したのに、一人の発言だけを板書。
 - 発言が他の子と同じ内容、学習からそれている内容であることなどを、子どもが納得するよう補足し発言を整理する。
- 3 なぐり書きのような板書
 - メモ書きや下書きと板書の書き方は違う。文字を上手に書けなくても、ゆっくりといねいに書くことによって、書かれた内容が子どもに理解できるようになる。
- 4 誤った文字や送りがなのある板書

※ 前号の発問と今回の板書のタブーは、理解していることと思います。日々の授業で実践されているでしょうか。

学級経営のヒント ⑭

～ 保護者対応のしかた ～

- 1 わが子を思う親心や保護者の立場を理解して対応する。
- 2 その子の長所や持ち味を強調しながら対応する。
- 3 指導に問題がなかったか、謙虚な姿勢を忘れない。
- 4 共通の願いに向かって協力し合っていくという意識を育てる。
- 5 親子の悩みに心から共感し、親身に、真剣に対応する。
- 6 保護者の教育に対する考え方や感じ方を理解する。
- 7 親しみとなれ合いを区別し、節度を忘れない。
- 8 人間尊重の精神を忘れず、何気ない言葉に気を付ける。
- 9 職務上知り得た秘密を守る義務がある。
- 10 内容によっては、学年主任等に同席してもらう。

※ 保護者対応の基本的な考え方は、教師と保護者が良好な人間関係を築き、信頼関係を深めることです。学校に対し疑問や注文を多く要求する保護者が増えてきましたが、教育の本質を踏まえ、説明責任をはたしながら対応しましょう。

道徳主任等研修講義より

～ まずは、教師自身の生き方を考えましょう。～

思いやりのあるたくましい子に育てほしい。みんなの願いです。その素朴な願いをかねるのが、道徳教育です。道徳教育で最も大切なのは、大人の感化力です。あなた自身の後ろ姿が、子どもたちの道徳教育に最も影響を与えるのです。

それは、自分自身の生き方を自らに問いかけることに他なりません。

～ 子どもたちと一緒に考え追い求めるのが道徳教育 ～

- 自分のよさに目を向ける ○感謝する心とともに、心の支えをもつ
- 夢をもってまじめに生きる ○子どもを丸ごと認め、よさを生かして課題に立ち向かえるようにする

昭和女子大学 押谷 由夫 教授